「自閉症教育の新しい取り組み」

－子どもが主体的に分かって動けて参加できる授業づくり－

平成 21 年 12 月５日（土）10:00―12:00、筑波大学特別支援教育研究センター教授の藤原義博先生から、「自閉症教育の新しい取り組み－子どもが主体的に分かって動けて参加できる授業づくり－」のご講演をいただきました。

特別支援教育制度が始まり、特別なニーズを有する児童生徒の授業場面における支援の在り方が課題となっています。中でも、自閉症のある児童生徒に対しては、社会性の育成が重要な目標であるにかかわらず、個別的な支援にとどまっており、集団参加を実現する支援には至っていません。

近景　そこで本講座では、日本唯一の自閉症学校である筑波大学附属久里浜特別支援学校において実証的成果を示している筑波大学の藤原義博先生から、自閉症児の集団参加を実現する支援のあり方についてご講演をいただきました。

わが国の自閉症教育の位置づけや新しい学習指導要領を踏まえると、自閉症教育の課題は、①主体性、②生活への般化、③社会性をどのように促進するかにあります。特別支援学校の授業場面においては、個別化の教育や人の手厚さが、子どもの多様な学習機会を阻害しています。その解決には、子ども自らが動き、手応えのある体験していくことが重要です。授業の改善前と改善後のビデオを比較しながら、集団授業の中で、こうした条件をどのようにつくりだし、参加の量的、質的な向上を実現することができるかを解説していただきました。幼小中高を通じた実証的な成果にふれ、学校教育のもつ可能性を実現するための日々の教育実践の視点が明確にされたように思います。